



緑園西

泉区緑園3丁目39番地

TEL (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

心の距離

学校長 立田 順一

「こうちょうせんせい、なかをみせてください！」

そう言って、1年生の子どもたちが3人、緊張した面持ちで校長室に入ってきました。入学当初の1年生は、生活科の学習で「学校たんけん」をすることになっています。これまで、クラスごとに学校内の様々な場所を見学していましたが、この日は2～3人ずつの小グループに分かれて、図書室、理科室、音楽室などの特別教室や技術員室など、今まで中に入ったことがない場所や、自分たちが興味や関心をもった場所を訪れることになっており、校長室もそうした「たんけん場所」の一つになっていたのです。

最初のうちは口数が少なかった3人も、来客用のソファに座ってみたり、歴代校長の顔写真を眺めたりしているうちに緊張がほぐれてきたのか、「どんなしごとをしているんですか?」「このたなのなかには、なにがはいているんですか?」と、次々に質問をしてくれました。そして、最後には「ありがとうございました」と、礼儀正しく挨拶をしてから部屋を出ていきました。その後も、いくつかのグループが校長室へやってきましたが、どのグループもお互いに協力をしたり、マナーを守ったりすることができており、その姿に感心させられました。そして、例年よりも2か月遅れで小学校生活をスタートした1年生が、学校での生活に慣れ、成長している様子に安心をしました。

7月からは給食が始まり、段階的な学校再開の新たなステップに入ります。けれども、以前の学校生活が完全に戻ってきたわけではありません。依然として、新型コロナウイルスの感染防止のため、多くの人が《手の届く距離》に集まらないような配慮や、近距離での会話を控えるなど、ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）を保つことが求められており、学級の枠を超えた活動や校外での活動などには制約があります。子どもたち、とりわけ最上級生の6年生にとっては、全校のリーダーとして活躍するはずだった「たてわり活動」、クラブ・委員会活動などが始められないことに加え、7月に予定していた修学旅行が延期になるなど、その力を十分に発揮しきれない状況が続いています。しかし、そうした中でも、6月上旬の分散登校の際には、午前・午後に分かれて登校した6年生のAグループとBグループの子どもたちが、廊下の「伝言板」を使って交流をするなど、お互いに繋がろうとする工夫も見られました。

まだ先行きが不透明な状況ではありますが、感染防止の配慮をしつつ、社会的距離が「心の距離や隔たり」を生まないように、子どもたちの思いを大切にしながら取り組んでいきたいと思っております。

